

学生参画型FDイベント 「あったらいいな！こんな授業」の開催

吉田雅章

和歌山大学経済学部

はじめに

従来、FDの中心は教員であったが、最近では学生の力を利用した学生参画型のFDが提唱されてきている。その最先端は橋本勝先生率いる岡山大学大学教育開発センターであり、同センターの企画・運営されているイベントには種々のものがあるが、特に新授業創作コンテストは実に興味深いイベントである。当初は橋本先生より学生同伴での参加依頼があり、半信半疑で参加したのであるが、和歌山大学でも同種のを開催しようと思いつくほど画期的なFDイベントであると感じた。そして、実際、平成18年12月と19年8月の2回にわたり、和歌山大学で若干アレンジして「あったらいいな！こんな授業」という名称で学生参画型FDイベントを実施した。(裏面からいえば、多くの教員の参加を望めないFDの担い手として学生に参加してもらい、搦め手からの授業改善を図ることが目的であるかもしれない。)本発表ではその実際と分析・検討などを試みる。

第1回「あったらいいな！こんな授業」

開催趣旨：和歌山大学では、平成10年3月よりFD研究会やFD推進委員会を中心に教育改善・授業改善に取り組み、その活動は文部科学省をはじめ多くの大学や高等教育機関より高く評価された。FD講演会やシンポジウム、学生による授業評価などはもちろんのこと、おおよそ70回に及ぶ公開授業&検討会を実施し、FDフォーラムは、教育改善は教員だけでなく大学全体で考えるものという趣旨から、UD (University Development) フォーラムに名称を変更して実施した。このUDフォーラムでは、平成15年より和歌山大学生の参加を募ったが、今回は和大学生の積極的な参加・企画を求め、学生と教職員とが交流して、教育改善に取り組むという教育改善ワークショップという形式を計画した。

内容：学生諸君が受けてみたいと感じる授業を提案してもらい、もし可能であれば来年度、その授業を実現してみようというものである。第1回では全学共通科目で、「こんな授業があったら受けてみたいな」というものを募集した。配布資料やパワーポイントで、タイトルや授業の目的・狙い、14回(最終試験を加えれば全15回)の授業計画などを聴衆の前で説明してもらい、最後に、投票で発表作の最優秀賞を決定し、大学がこれを表彰し、来年度に実施することができるか否か議論し、もし可能であれば全学共通科目として開設することも計画している。また、徳島大学の神藤貴昭先生をゲストとして迎える。

結果：全部で18組の応募があり、4会場で予選を実施した。審査基準は、①魅力的では是非とも受講してみたい授業、②和歌山大学全学共通科目として実現可能であること、の2つとした。会場毎に挙手にて本選進出者1組を選出し、「和歌山大学改造計画～身近な環境を考える～」・「大学生のための論理トレーニング」・「起業力育成」・「映像、音楽文化と社会学」の4発表が本選に進出した。勝ち残った4グループで再度競い合ってもらい、

無記名投票の結果、「起業力育成」と「大学生のための論理トレーニング」とが同数となり、挙手により「大学生のための論理トレーニング」が最優秀賞に選出された。

学生参画型授業改善演習「あったらいいな！こんな授業」の開講

前記のイベント開催をふまえ、19年度前期にリハーサル的な授業を開講して発表学生の能力を高めておこうということになり、教育学部の川本治雄先生と二人で水曜の5限(16時30分開始)に新しい授業(取得できるのは教養科目としての2単位)を開講した。シラバスに記載した狙いは次の通りである。オープンキャンパス時に開催する予定の学生参画型FDイベント・第2回「あったらいいな！こんな授業」を開催するためのさまざまなノウハウを修得し、大勢の聴衆の前でプレゼンをする能力を養成し、パワーポイントで「あったらいいな！」と思う授業案を発表してもらったり、司会者としてイベントを進行してもらったりすることが本授業の最終的な目標である。イベント開催にむけての取り組みを教養科目の授業として位置づけ、コミュニケーション力やプレゼン能力・企画をする力などを育成する演習として取り上げ、このような取り組みの成果を「オープンキャンパス」開催時に発表してもらおう。和歌山大学におけるFD活動の一端であり、和歌山大学の授業改善・教育改善の一翼を担う活動でもある。受講登録者43名中、39名がオープンキャンパス時のイベント開催に協力した。なお、別途、和歌山大学・学生自主創造科学センターの自主演習(取得できるのは教養科目としての1単位)も開設し、受講登録は7名であった。

第2回「あったらいいな！こんな授業」

実施要領は第1回とほぼ同内容にした。ただし、8月の第1日曜のオープンキャンパス開催時に、(各学部開催イベントとは別個という意味で)大学共通イベントとして同時開催して、受験生らに生の和大学生を見てもらい、同時にオープンキャンパス参加者の会場参加も意図した。発表としては全部で22組の応募があり、午前中、5会場に分かれて予選を実施した。「意外に無かったな!こんな授業～めざせ!記憶力up↑～」・「沖縄」・「ニュースの読める大学生」・「コミュニケーションスキル」・「情報化社会と生活」の5発表が午後の本選に進出した。岡山大学の橋本勝先生をゲストに迎え、本選ではおよそ100名が参加し、(意外にも)活発な討論が展開され、無記名投票の結果、「意外に無かったな!こんな授業～めざせ!記憶力up↑～」が最優秀賞に選出された。その後、第1回分も含め、優勝発表の具体化を授業評価改善・推進部会で検討し、吉田が20年度前期に「論理トレーニングと法的思考」を開講し、教育学部の米澤好史先生が20年度(または21年度)後期に「記憶力と認知力」を開講することになった。

学生参画型FDイベントの分析と検討

主なものを列挙する(詳細は3月の発表とする予定)と、①企画・運営・司会・発表などに役割分担してイベント開催したことは学生にとって大きな成長となった。②通常は授業の受け手に過ぎない学生が、授業を作る側に回ることにより授業の受け方が変わった。③大学にとって、全国でも類例の少ない学生参画型FDイベントを開催できたことは対外的に誇れる材料である。④聴衆からの感想によれば先生の講義はつまらないが「あったらいいな！こんな授業」の学生発表は非常に興味深くて退屈しないで聴くことができる。